

「考えよう、土砂災害」

ひょうどう あかね
愛媛県 愛南町立内海中学校 3年 兵頭 亜佳音

今年の夏は台風が多い夏でした。台風が3つ連続で発生したり、勢力の強い大きな台風が発生したり、とニュースでも台風の話題を聞くことが多かったです。

普段なら、このニュースを聞いても台風は愛南町に来るかとか、警報が出たら学校は休みかどうか、などを心配するだけです。なぜなら、私が住む地域は台風の被害があまりなく、暴風雨が来てもすぐに通り過ぎてしまいます。だから、そんなニュースを見ても他人事のように思っていました。

しかし、今年は少し違います。私たちは、1学期に砂防学習を行ったからです。その学習で、土砂災害は地震や津波のような災害よりもっと身近で、自分たちがもっと気をつけなければいけない災害だと学んだからです。砂防学習のあと、今年の台風のニュースの中には土砂災害に警戒するものも多くありました。私たちは、何の対策もしていないことにひやひやしました。私の家の後ろにはずっと山が続いているからです。この後も台風がいくつも続いてくるかもしれない、これからもっと大型の台風がくるかもしれない、台風の時期にずっと雨が降り続くかもしれません。そこで、命を守るためにも今のうちに対策を始めなければいけないと思いました。

砂防学習で専門の方々から話を聞いて分かったことは、土砂災害は地震とは違い、突然起こるのではなく、周りをよく観察しておけば、余裕を持って避難することができるということです。私は、災害はいつでもどこでも突然起こるというイメージがあって、その時にどれだけ早く逃げられるかが大切なのだと思っていました。けれど、周りの自然の様子を観察していれば自分だけではなく家族や近所の人たちとも一緒に逃げることができます。特に、私の住んでいる地域には高齢の方々が多いので、早く異変に気づけるとそれだけ早く避難する時間を確保できるようになります。そうすれば、自分だけで避難するのが精いっぱいな状態から、多くの人を助けることができるようになります。私たち中学生が、砂防学習で学んだことを通して、地域のために役に立てるのです。そのためにも常日頃から周りの様子を観察するようにして、小さな変化にすぐ気づきたいと思います。

また、愛南町は防災に対する関心が高く、特に津波の被害を心配しています。私の家族も同様で津波による避難場所はここというように決めています。しかし、土砂災害による避難場所は、津波で避難する場所とは違うと思います。家族に聞いても曖昧です。あらためて避難場所はそれぞれの災害で細かく決めておかなければいけないと気づきました。実際に避難するときに持ち運ぶ荷物も、1年に1回は確認するのですが、あとはほったらかしです。しかし、土砂災害は準備をする時間があります。ニュースの情報を見て、危険なようならその都度、中身を確認し、準備を怠らないようにしておきたいです。

今回、砂防学習を受けて私が知らなかったことがあります。それは、土砂災害に備えて国や県が、砂防ダムを作ったり、地中に鉄を刺して固定をしたりして被害を少なくしようとしていることです。説明を受けてから学校の帰り道に意識してみると、何か所もありました。私たちが安心して暮らせるように、土砂災害が起こっても避難の時間を確保し、被害が少なくなるように、いろいろな工夫をしていることに感謝の気持ちをもって生活していかなければいけないと思いました。今まででは自分の家の災害対策という視点しか考えていなかった私ですが、今後は自分たちの住む地域はどんな対策をしているかも把握しておこうと思います。把握しておけば、万が一の時に、何を準備しておけばよいのかやどこに避難すればよいのか具合的にわかっているので、パニックにならず落ち着いて行動できると思います。

私は今まで何気なく生活してきました。私の住む愛南町は海や山に囲まれた自然豊かなところです。時間がゆったりと流れ、人も穏やかで暮らしやすい町だと思います。小さいころから暮らしてきているこの町が土砂災害に襲われるなんて想像ができません。しかし、「まさか」とか「大丈夫」とかいう考えは捨てて、「もしかしたら」という緊張感をもって、もしものときには対処していきたいです。土砂災害の予兆は専門家でもわかります。住んでいる住民が知識さえあれば避難することが可能です。自分たちの命を自分たちで守ることが多くの人のためになります。今後も正しい知識を身につけて学習や訓練に一生懸命に取り組むようにしたいです。